

1 外国人救援、なぜ必要か？

震災後の「帰国」外国人報道

- ◆ 一気に帰国したために労働力が不足し、繊維業界に至っては数万人規模の中国人研修生が働いていたため、産業自体の崩壊が危ぶされているという。(J-CASTニュース3月30日(水)19時52分配信)
- ◆ 牛丼大手の吉野屋で、東日本大震災後の約1週間に、首都圏で勤務する外国人アルバイトの4分の1に当たる約200人が退職していたことが14日分かった。退職者の多くは、余震や原発事故の影響を避けるために帰国したとみられる。(時事通信4月14日(水)21時1分配信)
- ◆ 茨城県では、農家の人手不足が深刻化しており、出荷制限や風評被害など更なる痛手も加わり、農家は頭を悩ませている。

人道的見地では答えがでない外国人救援

- 公的資源を使ってまで助ける必要がある？

「日本人は大変な思いをしているのに、本国に逃げる外国人が許せない。」 ▶ 外国人不要

「所詮外国人は一時出稼ぎなので、帰国するのは仕方がない」 ▶ 理解、自戒

公的な資源を動員してまで、特に非常事態において外国人を救助する必要があるのか。
上記二つを含め、人道上の見地からでは答えを出せない。

▶ 外国人救助は日本のためにもなる。

論調1	外国人不要論	論調2	理解論	その他	自戒論
2011年3月24日 17:56:57: krSx5GZxAU	いいじゃないですか。 中国人が居なくなれば。	2011年3月26日 02:55:02: Fn5ccpaM4s	ん？中国人は正直な対応だと思うよ。 俺も外国人であれば、とっとと日本を去っている。 俗物だから、命が惜しいもの。	2011年3月28日 02:51:52: 10DuMwa6uk	関東大震災のときにも、こうして在日近隣諸国に対する偏見を利用した排他主義的なリードがあった。 あれから90年、まだ私たちには、こんな下劣な言論に踊らされるのか。
2011年3月25日 15:53:17: T4rCXSe7hM	中国人、韓国人らが日本から出ていったことが不幸中の幸いですね。	>本国に帰国する中国の人々が殺到した背景には、かの地のメディアのミスリードが背景にあるようだ	日本のメディアの方が(政府も含めて)ミスリードしていると思うよ。	そうはいかない。作為的な言論には自分の知性で判断できる能力を持っている。	産経よ、日本の危機にメディアとして責任を持てる報道にいい加減目覚めたらどうなのだろうか。
2011年3月26日 01:13:24: MLA0mPheMY	日本は戦争に負けたとはいえ、心底良かったのは支那韓と縁が切れた事。運気を回復した日本は、水を得た魚のように復興したのであった。 ここ十年、支那韓がたかるようになってから日本は再び沈没しかかっていた。 本来の日本を取り戻せれば、再び奇跡を起こす事も難しくはない。				

2 在日中国人にとっての震災

苦渋の帰国

- 移動には「犠牲」が伴う。震災は日本人だけでなく、外国人の生活基盤を奪う。

自主避難、帰国は賠償とならない。来日、帰国の代償 ▶ 金銭的、ライフチャンス、言語習得、文化適応感情的・孤独感、疎外感など。

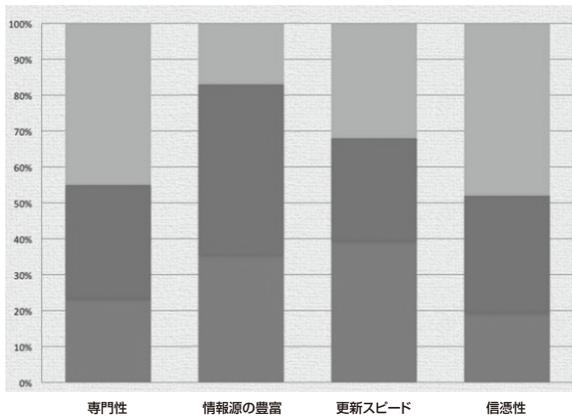
空しく聞こえる「国際人」の現実

中国人の情報獲得

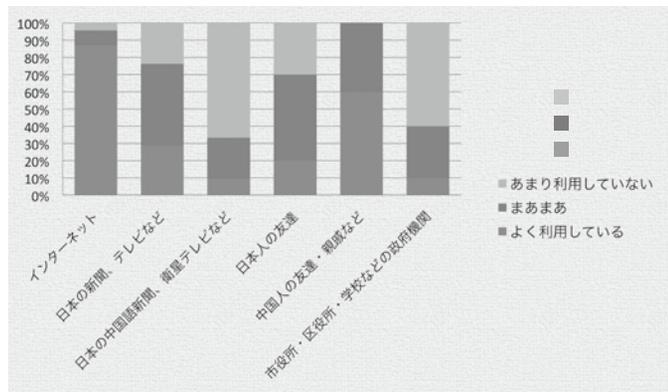
情報獲得手段	よく利用する		あまり利用しない		利用しない		合計	
	回答	比率	回答	比率	回答	比率	回答	比率
インターネット	101	93.5%	4	3.7%	3	2.8%	108	100%
日本の新聞、テレビなど	39	41.1%	31	32.6%	25	26.3%	95	100%
日本の中国語新聞、衛星テレビなど	13	15.3%	18	21.2%	54	63.5%	85	100%
日本人の友人	20	22.2%	28	31.1%	42	46.7%	90	100%
中国人の友人・親戚など	49	52.1%	34	36.1%	11	11.7%	94	100%
市役所・区役所・学校などの政府機関	19	21.3%	33	37.3%	37	41.6%	89	100%

獲得情報についての満足度

■ 不満足 ■ ある程度満足 ■ 満足



生活情報はどこで得ているか？



3 「絆」=市民意識の醸成

1.地域における外国人

生活者、市民として外国人受け入れのコンセンサスの醸成 ▶ 政府、地方自治体、民間の共同作業。メディアの役割が非常に重要。

2.外国人が市民意識を持つこと。

◆ 在日外国人の自助団体、ネットワークがよりオープンに。 ◆ 日本社会の許容度。 ◆ 情報発信、地域社会に対する貢献。

3.外国人に対する市民資質の教育

「帰国」さわぎでわかったもの

移民は日本社会を支える ▶ 3K労働、専門職、技術職、橋渡しの役割、「外国人帰国」で困った業界：製造業、IT産業など。

生産者だけでなく外国人 (震災後の外国人観光客の激減・留学生の帰国とその誘致) ▶ 「外国人来日激減」で困った業界：観光業、大学など。

「がんばれ日本」は「がんばれ、日本人」ではない ▶ 必要なのはシチズン、住民意識ではないか。
外国人労働者、生活者は社会的コストのかかるもの



私は来日して20数年、外国籍の人間の立場から言うと、先ほどからのお話のように沢山の地域で外国籍の人に対して多くのサービスをしていることに敬意を表します。一方、日本社会の住民として言いたいこともあります。今日は在日外国人の住民意識という点から在日外国人との「絆」について3つのこととお話したいと思います。ひとつは、何故メディアということについて外国人に救援が必要なのか、ということ。日本全体が大変な時になぜ外国人を助けなくてはならないのか。一般的にはこの点の理解がどこまで進んでいるか。2つめは助けるとして、どのように助けるのか。3つめには外国人市民をどうやって育てるか、それに関してのメディアの役割について、お話しします。

なぜ外国人を助けなくてはならないのか。

震災後外国人の帰国は大きく取り上げられていました。震災直後は研修生がたくさん帰国し、農家や水産業者は大変困っている。首都圏では例えば吉野屋などで多くの外国人アルバイトが退職している。私の職場でも、アメリカ人の先生が帰国した。そういう時、周囲ではなんとなく、外国人は帰るところがあつていいな、という疎外感のようなものを味わっている。

一方、外国人の立場から見て、どういう経緯で帰国したのかというと、外国人にとっても、震災は生活基盤を奪ってしまいました。漁業関係者は仕事ができないわけですが、日本人の場合は補償がある、しかし外国人の場合は帰るという選択をするかどうか、もし帰るとしても、それは口に出せないほどの苦しい決断です。生活基盤が奪われるというのは日本人も外国人も同じなのです。

日本に来ている中国人は大きくわけて2つに分かれます。ひとつはIT技術者あるいは留学して日本で就職した人たち、いわばアッパークラスの中国人です。もう一方は研修生など、多くは農村出身者で人数が多い。事例を紹介します。

留学生として来日し、日本で就職した55歳の首都圏在住の男性。4人家族で長男は独立しています。この家族も大変難しい決断をせまられました。専業主婦の奥さんは、特に原発事故による水の問題など大変強い不安感があり、二男とふたり、正規料金の何倍ものチケット代を払って帰国し、学校に入れたということです。しかし、日本生まれの二男は学校に適應できず、6月に母子は再来日しました。

もうひとつのケースは、都内に店を出しているコックさんです。技能ビザを持っているのですが、かなり長い間努力しないと、なかなか店を開くことは難しいのです。まず、中国国内の斡旋業者に頼む。技能ビザは最初は1年ずつの更新が必要、在留資格の更新も常に心配してはならない。このケースのコックさんは広東省から来日し、いくつかの店に就職して働き、借金をしてやっと店を出した。しかし震災後、帰ってこいというコールを何度も受けました。結果的に、お店はたたみ、借金も完済しないまま帰国した。

災害は「なにになに人」というのに関係なく、生活基盤が奪われるという意味では同じです。外国人の場合は来日する際の費用や努力の大変さや、補償が得られないなど、むしろ深刻なケースもあると思います。

「帰国」さわぎでわかったもの

①移民は日本社会を支える

こういう帰国騒ぎから分かることは、外国人無しには日本社会がやっていけない、ということです。いわゆる3K労働、専門職、技術職、などの外国人です。政府として研修生という使い捨ての制度にしているという制度上の問題もあります。外国人をどういうふうに入れて、将来どういうふうに進んでいくのかということが見えてこない。外国人の立場からすると、こういうところで震災時ががんばっていても、はたして住民として受け入れてもらえるのか、そういう不安があつて、いざというときにやはり日本から離れてしまうのです。なので、外国人も雇う側も、これは社会的コストがかかることなんだという認識をもたなくてはいけないのではないのでしょうか。

②生産者だけではない外国人

観光客の激減、留学生の帰国などで観光産業や大学は打撃を受けました。がんばれば日本、と言っても、日本人だけが頑張ればいいというものではなく、ここでも外国人が必要になる。

③シチズン、住民意識の必要性

外国人労働者、生活者は社会的コストのかかるものと認識し、住民として受け入れることが必要なのではないかと思います。だから、外国人に対しても情報を提供する必要があるのだ、ということをも確認しておきたいです。

実際に中国人が帰り始めたのは3月16、17日ごろでした。原発の爆発があって、情報が錯綜していました。幸か不幸か中国人は日本人よりも情報に対する選別能力が優れていると思います。政府の言うことはまず疑ってかかる。今回の場合、中国人の見方が当たっていて政府が起こらないと言っていたメルトダウンが実際起こっていたわけですね。政府の情報管理に問題がある中、アメリカ、フランス、中国、韓国などから帰国勧告が出されて、中国は新潟の領事館がバスをチャーターし、最初は研修生が新潟へ行っただけで、そのことが首都圏にも伝わって、不安感が広がった。首都圏はコミュニティとのつながりが希薄なので、不安から自主帰国が相次いだのです。動きやすい若い単身者が先に帰り、家族がそれに続きました。帰国の背景には情報への信頼ということがあります。中国人に限って言えば、中国人はどこから情報を得たのか、どういう情報を信頼したのか。2007年の調査ですが、留学生、就職者、帰国者（残留孤児二世三世）、国際結婚をしたひと、計108人に対して取ったデータがあります（事前資料参照）。

情報獲得の手段の1位はインターネット（93.5%）です。次が中国人の友人、親戚など、が2位（52.1%）ですね。いうならばクチコミです。人的ネットワークから情報を得ている。次が日本の新聞、テレビなどから（41.1%）、です。日本人の友人からというのがあります（22.2%）。市役所など役所機関はあまり頼っていない（21.3%）。役所と名がつくところはあまり信じていません。インターネットとクチコミが大きな情報獲得の手段なのですね。なぜかという、先ほど言ったように、日本に来ている中国人はおおよそ二つに分かれていて、留学生や大学卒就職者でインターネットを使いこなす層と、研修生のような斡旋業者を通して来て、日本語もわからない、昔の華僑の方式、芋づる方式というか、人づてに来日している層ですね、大卒はインターネットに頼り、もうひとつのグループはクチコミに頼るといことです。次に生活情報をどこで得ているかということですが、ここでもやはりインターネットと中国人の友達、親戚というのがダントツに多いですね。

「絆」= 市民意識の醸成

では、3番目の、どうしたらいいか、ということですね。今回の災害は、平時・普段からの情報交換の大切さあるいはそのコミュニティへのコミットの大切さを示したと思います。そういう「つながり」の大切さ、ですね、それは日本人、外国人の双方に求められることだと考えられます。

一つ目、日本人にとっては、生活者・市民として外国人を受け入れる、それをコンセンサスにすること、それは消費税問題以前に、また少子化ともからんで議論してほしいと思います。政府、自治体、民間の共同作業として。そうした根本のところ、メディアの役割は非常に重要ではないか。これについては後でお話します。

一方、外国人にとっては、やはり市民意識をきちんと持つべきではないかと思えます。例えば福島県では中国人の集団は作られていなかったのですね。4000人以上居る中国人のネットワークが作られていない。背景はいくつかあります。ひとつは中国人の中身が多様化してまとまりにくい。もうひとつは、これは首都圏でも言えることですが、中国人が集まっていると、中国人ばかりが集まって何をしているのか、というような外部の目を意識して疎外感を覚える。しかし、自助グループとして外国人ネットワークがもっと機能していくべきではないでしょうか。一部外国人グループはありますが、よりオープンにしていかななくてはならない。

3つ目には外国人に市民資質を教育すること。日本人にとっては当たり前の役所に対する考え方と違って中国人にとってはまず市役所に行くことが恐入ること、というか、遠慮する。また、今回の震災で言えば、日本では常識になっている、地震とは何なのか、ということ、それに対して、津波は知らないからどんなものか見に行こう、ということなど日本人とはかなり違うベースの考え方なのですね。そういう部分も含めて考えるべきじゃないかと思えます。

外国人をほんとうに地域の住民として受け入れることの障害のひとつは、私がひとりの中国人として感じるの、メディアが日中間の大きな問題ばかりをクローズアップすることですね。皆さんはこの方をご存知ですか？中国では大変な有名人です。「佐藤水産」の専務の方で、中国人研修生を20数名助けたのですね。メディアも日中間の大きい問題点ばかりではなく、こういう人間としての、温かみのある部分も取り上げてほしい。それによって、コンセンサスが形成されるのではないか。

最後に

ネットにあった中国で開催された3.11の追悼集会の映像です。60人ばかりの自発的に集まった人たちが開催した集会で、「佐藤水産」の話を紹介した後で50元、日本人の感覚でいうと2万5千円くらいの募金をした。特に日本と繋がりが深い地方でもないのですが、そういうところでも災害に関心を持っていた。そのことはおそらく日本の主要メディアでは取り上げられていない。日本だけでなく中国のメディアでも報道されていないのですが、しかしこういうことを通じて、ほんとうの絆が築かれていくのではないかと思えます。以上です。ありがとうございました。

【司会】質問などは後のディスカッションの時間でしていただくとして、司会の立場として私なりにかみくだいたところで、教えられたことを申し上げたいと思えます。ひとつは、なぜ外国人を助けなくてはならないのか。周先生はそういう根本的なところから解き起こしてくださったのですが、政府レベルの問題と、日本に生きている住民のレベルとは分けて考えなくてはならない、ということではないかと思えます。もちろん完全に切り離すことはできませんが、我々は政治と市民意識の両面を考えなくてははいけない、それを教えていただいたように思えます。

もうひとつ、大変興味深かったのは中国人の方々のメディアに対する態度が日本人と違う。メディアの在り方も一様ではなく、日本人に対するメディアの在り方、中国人に対するメディアの在り方が違う、これはひとつのメディアが課されている課題ではないかと思えます。